

恐竜が出てきそう



恐竜大冒険! 見られる大生のシダ。高さは10mを超えます



恐竜学博物館の窓から外をみるとそこは中生代。ソテツ(左)やナシヨウソウ(右)は恐竜の食べ物だったでしょう



シダ植物を食べるサロコプス(復元画。裸子植物もいっぱい食ってた) (絵・吉田美)

恐竜が暮らした森! 窓の外は中生代だね! 大学にある恐竜学博物館の展示作りかえるときに、出たアイデア。みんなの思いはどんどん強くなり、学生と先生と展示専門家が協力して、本当に窓の外に作っちゃいました。

巨大な木生シダも生えていました。それから裸子植物のイチョウやソテツ。そしてツツボクがでてくる。最初のころは、地面をおおったのは胞子で増えるシダ植物。高さが10mを超えるところが1億年前ごろ

植物の世界は激変します。花を咲かせる裸子植物が大繁栄を始めたのです。最初の花はクスノキの花のように目立たなかつたと思われていますが、やがてスイレンやモクレンなど

の昆虫が大盛況しました。そして恐竜も大きく変わっていったのです。恐竜時代の始まりのころは花がないので、はなやかさがないのですが、終わりになればいる木に花が戀のように咲いて、けつこうかんだったかもしれませぬ。

展示室の外には中生代植物の生き残りを集めて植えちゃいましたよ。しっかり育てて! なんだか恐竜が顔を出しそうなの「中生代の森」をぜひ見に来て下さい。

お知らせ

恐竜学博物館の開館予定は恐竜学博物館で検索。



岡山理科大教授 石垣努

恐竜調査隊が行く

岡山理科大に「中生代の森」

豆知識

中生代の植物に大変化があった約1億年前。植物が多様になり、それに合わせて、動物も多様に進化した。また、その時代の地層があり、私たちがわかる時代の特徴が顕著にチャレンジしています。